議案第８５号　令和元年度調布市一般会計補正予算第４号　賛成討論

議案第８５号、令和元年度調布市一般会計補正予算第４号につきまして、生活者ネットワークは賛成の立場から討論をいたします。本補正予算には、台風による浸水被害への対応などを目的とした浸水対策事業費や根川雨水幹線維持管理負担金を含む下水道事業特別会計繰り出し金６８０３万円余、またごみ処理費や道路清掃費、消毒費用など台風１９号の被害に対する対応のための予備費１億円、被災者生活再建支援金 7800 万円（市負担は 7800 万、都補助 7800 万、計１億 5600 万です）、また大津市における事故を受け、通学路や保育園のお散歩コースの安全性を強化するための対策費 2200 万円など、いずれも市民生活の安心・安全の向上に重要な必要経費が計上されています。

その一方で、オリンピック・パラリンピック関連事業費として 900 万円が計上されているものについては、大会後のレガシーにもしっかりと繋げていただくことを強く要望いたします。まず、900 万円のうち 200 万円は、応募数の２倍近くの手が上がった市民ボランティアへの対応費用ということですが、このような市民の力がオリンピック終了後も市と市民の協働によるまちづくりへとしっかりと繋がり、活かされるような施策展開をお願いいたします。

また、残りの 700 万円は、機運醸成のために、市独自にデザインを発注し、市内に掲示することになっている、のぼり旗やバナーフラッグ、懸垂幕などのデザイン料や設置費、また製造費に充てられるということですが、こういう PR グッズの中には、すでに東京都から支給されているものもある中、市で新たに制作するものに一般財源から 700 万円もの予算を充てるというのは、市民の金銭感覚からは理解し難いものだと指摘をさせていただきます。まして、市内には台風 19 号で甚大な被害を受けた方が数多くいらっしゃいます。もちろん、オリンピックを迎えることで、被災された方々にも明るい気持ちになっていただけたらと願うものですが、まずは市民の日々の生活そのものの向上につながることに財源を使うべきであり、今回のオリンピック・パラリンピック関連事業費については、引き続き東京都からの助成を得るべく、強く働きかけていただきたいと思います。

また、この 700 万円の目的が、大会前の機運醸成にとどまらないことを求めます。オリンピックは単なるスポーツの大会ではなく、人権、宗教、政治、性別、その他の理由に基づくいじめや差別のない平和な世界の実現を謳ったオリンピック憲章に基づいた理念をもっております。それを念頭に調布市でもアクション＆レガシープランを策定してきたことと思います。そういった、オリンピッ

ク大会の重要な視点を、大会後にも調布市の施策の隅々にまで活かしていくことにこそ、この大きな世界のスポーツイベントを調布に迎える意味があると考えます。オリンピックの精神を、市政においても良いレガシーとして継承していくことを意識するなら、例えば懸垂幕やのぼり旗には「非核平和都市調布」や「国際交流平和都市」「ユニバーサルデザインのまち調布」「受動喫煙防止条例のまち調布」といった言葉を入れるなどの工夫もできるでしょう。また、大会の持続可能性に配慮した運営方針のテーマには、脱炭素社会の実現や資源管理と並んで、自然共生都市の実現があります。崖線緑地の保全を進め、東京という大都市にありながら自然環境を大切に残している調布としては、自然共生都市の実現は大会後もレガシーとして誇りにし続けることができる大切な街の魅力ではないでしょうか。単に大会が開催されるということをアピールするだけでなく、その後にどういったことをレガシーとして大切にしていきたいという思いで大会を迎えているのか、そのことがしっかりと伝わるような PR にこの 700 万円が有効に使われることを強く要望いたしまして、生活者ネットワークの補正予算第４号への賛成討論といたします。